



乾燥しておりますので
風邪等にご注意下さい。

◇健康診断のお知らせ◇

当院では、健康診断を実施しております。
予約制となりますので、ご希望の方は受付へお申込みください。
検査項目等詳細は、別紙
“健康診断のご案内”をご覧ください。

※H28年3月1日より料金が
変わりました

皆様いかがお過ごしですか？

興村脳神経外科クリニック通信第50号をお届けします。バックナンバーは当院のホームページからも閲覧できますのでご利用ください。

<http://www.okimura-nouge.com/>

節目となる50回目のクリニック通信です。皆様から時々頂くお「言葉」が継続への力となっています。宜しくお願い致します。さて、今年も人間ドックを受けてきました。詳細はいずれご報告予定ですが、気になったことがありました。胸部 CT 終了後、優しいような技師さん（もちろん私の職業は知りません）から「この検査は毎年受けていると、胸部レントゲンでは分からない小さな病気も発見できるのでお勧めですよ」とのお「言葉」を頂きました。毎年受けている検査ですが、そんなことを言われたのは初めてだったので「今年はきっと何か異常があったはずだ」と落ち込みました。帰宅後、妻に話したところ、「結果も出ていないうちにクヨクヨすることはない」と一蹴されました。こんな「言葉」、患者さんには言ったことがあるような気がします。

今月の話題は『言葉』です。

個人的な見解ですが、人は①書き『言葉』タイプ（素晴らしい小説を書くのにインタビューなどは苦手な作家の方など）②話し『言葉』タイプ（素敵なおしゃべりで我々を楽しませてくれるのに文章は支離滅裂な芸人の方など）③パフォーマンス『言葉』タイプ（書き言葉も話し言葉も苦手だがスポーツ、音楽、映像などで自己表現をする方）に分かれるような気がします。①、②、③全てできれば理想的ですが、何が得意であるかは個性ですから優劣をつけるものではありません。さて患者さんが医療情報を得ようとする時、①書き言葉（医学専門書）からに挑戦する人は多くないように思います。そこで②話し言葉（テレビ番組など）を利用する方が多いのではないのでしょうか。一般週刊誌の医療情報は書き『言葉』ですが、その質、量から考えると個人的には話し『言葉』に近いような気がします。また最近のテレビ医療番組はバラエティー化をしており、むしろ映像を駆使してインパクトのある③パフォーマンス『言葉』になっているのかもしれませんが。私は患者さんに情報を伝える時にはその状況に応じて、書く、話す、パフォーマンスする、ことがいずれも重要だと考えています。医療従事者、事務職に関わらず、患者さんへの様々なタイプの『言葉』の使い方に十分に気が遣える、そんなクリニックをスタッフとともに目指していきたいと思っています。

◇当院からのお願い◇

- ◆月初めには、保険証の提示をお願いいたします。
70歳以上の高齢受給者証をお持ちの方は、保険証と一緒にご提示ください。
- ◆お電話にてご予約される際は、まず診察券番号とお名前をお伝えくださいますようお願いいたします。
- ◆お引越等で住所・電話番号が変更になった際は、お知らせください。

今後とも、クリニックならびにクリニック通信にご指導いただければ幸いです。